

附属札幌中学校「学校だより」

# 藤 房

北海道教育大学

附属札幌中学校

学校だより

平成 29 年 3 月 24 日発行

No.13

## 今年度を終えるにあたって

保護者の皆様へ

校 長 佐々木 貴子

保護者の皆様、今年度一年間、本校の教育研究活動にご協力とご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

昨年は、開校70周年の式典がございました関係で、皆様には例年にも増して多くのご支援を賜りましたことに改めて感謝申し上げます。式典には日本中のみならずアメリカからも多くの同窓生や関係者の方々が本校にいらっしゃいましたが、おもてなしの心が伝わったというお礼の言葉が寄せられました。式典で2期生の河口知商さんから「校歌 わが学園」の歌詞には、創立当初の校舎にあった藤棚やアカシアの並木、そして校舎から見上げた藻岩山の頂上のことが記されていると教えて頂きました。あいの里の校舎に残されている藤棚の大切さを改めて思い知るとともに、これまでの70年の歴史と伝統を重んじ、これから始まる71年目はまた新しい風を取り入れながら、子供たちと一緒に歩んで参りたいと考えている所でございます。

3月15日には、本校第69回の卒業式が行われ、116名の生徒が元気に巣立って参りました。緊張感の中にも温かみのある卒業式で、来賓の方々からは式歌の「大地讃頌」や「巣立ちの歌」を歌っていた在校生の態度も素晴らしかったとお褒めの言葉を頂きました。その1、2年生もそれぞれの教育課程を終えて、進級することになります。

学校は、生涯学習社会を見据えて、一人ひとりの子供が主体的、創造的に生きていくために必要な資質や能力を身に付けるための基礎を築いていく場所です。今年一年間の生徒たちの成長の様子を振り返ってみますと、次のような成長した点と課題が見えてきます。本校では、教科のみならずベースやトランク、ブルームなどの総合的な学習の時間、学校行事や生徒会活動などを通して、他者との関わりの中で、ものを見る目を養ったり、自分のものの見方や考え方を広げたり、深めたりするような働きかけを行っています。このような働きかけの中で、生徒たちは友だちと一緒に学ぶことを通して、必ずしも自分の思い通りに事は運ばないということを認識したり、自分自身をコントロールしたりする力を身に付けることができるようになってきました。また、自分とは異なった仲間の意見や立場も尊重するという気持ちを持つとともに、どうしたら自分の意見を正しく相手に伝えることができるか、そのスキルを学ぶことを通して、人間関係づくりもできるようになってきました。

2学年は、5月の小樽での宿泊研修の反省会で「時間が守られていない。時間を意識することは、仲間のことを思いやることにもつながるので、一人ひとり考えて行動しよう。」と話し合っていたのを思い出しますが、このことを意識して一年間取り組んできたのでしょうか。生徒たちの挨拶や態度から、他者を思いやる心が育ってきているのを感じます。また、1学年は3学期に入り、新入生のための入学前交流会に向けた準備をしながら、自分たちが上級生になることを自覚したのでしょうか。この取組を通し



て、生き生きと活動する姿がみられるようになってきたのを感じます。しかし、全ての生徒たちが何もかも完璧にできるようになったというわけではありません。これからの1、2年間の学習や体験活動を通して、まだまだ成長をしていくことでしょう。

また、すでにお伝えしておりますように、今年度は、通学のバスなど公共交通機関でのマナーに関する課題も残りました。生徒が自分ごととして捉え、主体的に問題の解決に向かえるよう、今後も指導していきます。どうぞご理解の上、次年度もご協力・ご支援を賜りたくお願い申し上げます。



## 第69回卒業式が行われる

3月15日、第69回卒業証書授与式が挙行されました。青天に恵まれたこの日、本校の伝統である紫白幕に囲まれ、厳かな空気の中で116名の卒業生が巣立って行きました。入学時とは見違えるほど逞しくなった姿で赤絨毯をゆっくりと踏みしめながら、全員が力強く未来への一步を踏み出しました。卒業生の姿も大変凛々しい姿でしたが、それを支えた在校生の姿勢、合唱も心に響く素晴らしいものでした。とりわけ開校70周年でも歌った全校合唱「大地賛讃」は、式場に感動の余韻を残す素晴らしい合唱でした。



【卒業式を前にした式場】

## トランク座談会が行われる

第2学年 トランク担当 長谷川 英和

「自分たちの周りにはどのような他者がいるだろうか」

総合的な学習の時間「トランク」の最初の授業において、『多様な他者』をキーワードに探究的な学びを推し進めてきました。「トランク」という名称は、第65期生が名付けたもので、旅行カバンを意味します。社会や世界に広がる様々な人との関わりを求めて旅行し、そこで学んだことをおみやげとしてカバンに詰めて持ち帰り、また次の学びへと向かっていく。そんな探究活動を通して、見えてきたことをもとに、3月3日のトランク座談会で「理想の姿」という形で個人発表するに至りました。ご参会された保護者の皆様、大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

「トランク」の最初の授業で、自分を中心としたイメージマップを作成し、身の回りにいる他者を意識することから学びを展開しました。そのときにかかれたイメージマップは、主に家族や親戚、学校内の友人や先生など普段よく目にする人、あるいは、日常的に関わりの深い人が中心でした。「トランク」では、「ベース」で身につけた情報活用能力や人間関係形成力を土台として、小樽や韓国といった異なる地域の方とのふれあいやJICA訪問団との交流会、社会で活躍する方を訪ねての職業体験活動、長崎附中との交流に向けた準備などの探究活動をすすめてきました。座談会直前に再度かいたイメージマップから視野の広がりを感じました。生徒は、様々な人の関わりを通して、身の回りの多様な他者の存在に気づき、他者との関わりを通して、異なる価値観に気付いたり、文化や勤労について理解を深めたりしながら、自分自身を俯瞰し、自分



【トランク座談会の様子】

を取り巻く社会を意識するようになったといえます。「トランク」の名称にはもう一つの意味があります。「ベース」からの学びを『幹』として支え、来年度の「ブルーム」へつなげていくこと。トランク座談会で示した理想の姿をもとに、中学校最後の一年、学びの集大成として、花開く学びとなることを願っています。

<座談会後に書いた振り返り（一部抜粋）>

- ・「社会での自分」についてよく考えることができました。まず、最初に考えた「自分の周りにいる人」です。図に表して見ると、自分にはたくさんの方が関わっていて、自分はこれらの人々に支えられて生活できているということが知れました。
- ・主に職業体験で社会に出ている人を間近にみたことで、社会という大きな存在に対してはっきりとしたイメージをもつとともに自分の将来を意識することができました。
- ・他者と関わっていく中で、視野が広がり、自分は社会の一員だという自覚をもつようになりました。
- ・広い目線をもつと多くの人と関わり、支えられてきたことがわかった。もうすでに学生として社会と十分に関わっている。日頃から幅広い考え方や思いを取り入れることが大切になってくる。
- ・これからの社会で生きる上で、一人で突っ走っていても何の貢献にもならない。周りの人と支え合ったり、しのぎを削ったり、考えを深め合ったりするを通して自分も他人も共に成長し、社会の一翼を担う存在として花開くことができるのだと思った。
- ・JICA 交流や韓国訪問に行った仲間からの話を聞いて、自分の文化と相手の文化を交流し、共通点や相違点を見つけ、お互いに認め合い、尊重することが大切だとわかりました。

## ◆新年度当初の予定

4月 6日(木)	新任式・始業式〈簡易給食〉
7日(金)	第72回入学式〈簡易給食〉
10日(月)	学級写真撮影
12日(水)	研究日 尿検査1次
13日(木)	学力テスト(全学年)
14日(金)	口腔検査(全学年)
17日(月)	授業参観(5校時)、学級懇談会
18日(火)	全国学力・学習状況調査(3年)、内科検診(1年)
19日(水)	前期委員・専門局員承認式、内科検診(3年) 研究日
21日(金)	職員会議5、内科検診(2年)
22日(土)	部活動結成集会(午後、希望者のみ参加)、PTA・ふじづる総会(午後)、PTA役員会①、第1回学年懇談会
24日(月)	教育相談1(全学年)
25日(火)	教育相談2(全学年) 小中ふじのめ合同体位測定
26日(水)	教育相談3(全学年) 研究日

※おおよその目安として参考にしてください。詳細は4月に配付される月行事予定・年間行事予定でご確認ください。

- 新年度は4月6日(木)から始まります。上靴を忘れないように気を付け、1、2年時の教室で待機してください。登校したら自分の現在の出席番号の表示を探し、その場所を使用してください。
- 4月7日(金)は新しい教科書が配付されます。教科書を持ち帰ることができるカバン等の準備を忘れずをお願いします。

## お世話になりました 教職員の異動

今年度は 12名の教職員が転出・退任することとなりました。

寺田 実 先生	(主幹教諭・美術 10年)	主幹教諭として札幌市立真栄中学校へ
菅谷 昌弘 先生	(社会科 7年)	札幌市立平岡緑中学校へ
細川 朝子 先生	(技術・家庭科 3年)	札幌市立西野中学校へ
本間 尚史 先生	(特別支援 4年)	札幌山の手養護学校(中学部)へ
折目 帆香 先生	(国語科 1年)	ご退任
西澤 英剛 先生	(社会科 1年)	ご退任
後藤 久美子先生	(英語科 3年)	ご退任
阿部 知子 先生	(美術科 1年)	札幌市立平岸中学校へ
大上 泰裕 先生	(特別支援 2年)	札幌市立平岡公園小学校へ
坂下 令光 参事	(事務職員参事 1年)	大学総務部札幌校室へ
安達 美佐子さん	(特別支援校務補 3年)	ご退任
大西 智子 さん	(心の相談員 1年)	ご退任

今春は大変多くの方が本校を去られます。どの教職員の方も本校生徒の教育に情熱を注いでいただきました。別れを惜しみつつ、お世話になった方々に感謝し、これからの活躍を願うばかりです。離任される教職員を代表して、主幹教諭 寺田 実 先生にお言葉を頂きました。

### 離任に際して

### 寺田 実



3月をもって附属札幌中学校を離れ、4月からは札幌市立真栄中学校で主幹教諭として勤務することになりました。附属での10年間、目的意識が高く、学ぶ意欲に満ちた生徒の皆さんとの出会いがありました。同い年の中学生より考え方や志がしっかりしている生徒から、教員としての生活の中でも心に残る、たくさんの感動をもらいました。

私は、本校に着任するまで授業は教えるものと思っていました。しかし、生徒の深い気付きや発言、生徒同士の学び合いの姿、教師への発問などから、生徒と教師で創り上げる授業の価値を実感することができました。また、保護者の皆様には「共創の学校」の理念にご賛同いただき、日々の教育活動、PTA活動、研究大会や行事の運営などを様々な形で支えていただき、そのご支援があつてこそ、創造的な教育活動を展開することができました。改めまして感謝申し上げます。

着任当時に出会った生徒たちも社会に出始め、遠くは海外からその活躍の報告が届きます。その際、「附属中で学んだことが自分の人生の基盤となっています」と述べられることがあります。私達が実践してきた教育活動の成果を実感するとともに、そこから得た活力をこれからの生かしていければと思っています。

末筆になりましたが、70周年を終えて、新たな時代へと進む本校の益々の発展と生徒並びに保護者の皆様のご多幸を心からお祈りいたしております。本当にありがとうございました。